



宮司プレス 七十九号

彦島八幡宮 宮司 ニューズ

発行者 彦島八幡宮

宮司 柴田 宜夫

発行 平成二十四年十二月五日

◇宮司の柴田です。今朝も、御日供祭(おにつくさい)と朝神楽(あさかぐら)を奉仕す

るために、午前四時前に、お宮に出社しました。風は全く吹いていないのに、底冷えがしました。今年一番の冷え込みだったようですね。

白衣の下は、半袖のシャツ一枚でありますから、容赦(ようしや)なく体温を奪われ、閉口しました。「伊達(だて)の薄着(うすぎ)」で

ありますね。寒いのに「着ぶくれ」を嫌って見栄(みえ)を張って薄着(うすぎ)をすることです。しかしながら、「身を削(そ)ぐ思い」をする事

が、神様への崇敬(すうけい)の誠である、「潔(いさぎ)よい」清らかな心に近づく「禊(みそぎ)」であるとするとするならば、「伊達の薄着」は、

私の宿命でもあります。いよいよ厳しい冬の到来ですね。「寒さを我慢するから風邪を引くのよ」、「白衣の袖口から長袖や、ふくらはぎ

のあたりから股引(ももひき)の裾(すそ)が見えてもいいじゃない、寒さにはかえられないし、御身(おんみ)大事(だいじ)でしょう」、私の伴侶

(はんりよ)の仰せであります。仰せは、誠にもってこもつともではありませんが、今しばらく

くは、「伊達の薄着」で、御奉仕を続けてまいりたいと思います。

◇十二月の事をなぜ、師走(ししゅう)というのでしょうか。皆忙(いそ)しく、師匠(ししやう)といえども趨走(すうそう)、ちよこちよこ走るといいう意味(いみ)です。することから、「師趨(しすう)」と

なり、これが転じて師走(ししゅう)になったとする説(せつ)が一般的(いっぺん)です。また、「歳極(としはつ)る月(つき)」であるという説、あるいは、「万事(ばんじ)為果(しは)つ月(つき)」という説、また、「農事終(なうじしゆう)る」という意味(いみ)であるという説、諸説(しよせつ)あります。

実は、「師走」は、当て字(あてじ)であるともいわれます。何かと気忙(きせわ)しく、慌(あわ)ただしい年の瀬(せ)を迎(むか)えています。

◇お知らせです。来年(らいねん)の祭事暦(さいじれき)、こよみ(こよみ)を制作(せいぞう)しました。本年(こねん)の七月三十日(しちがつさんじつ)に齋行(さいこう)しました夏越祭(なごし)御神幸祭(みかみゆきさい)の海上渡御(かいじょうとぎよ)を向井町(むかいまち)在住(じゆう)の中野(なかの)さんが撮影(さつえい)されたものをモチーフ(モチーフ)にしました。「流王丸(りゅうおうまる)」と「妙祐丸(めうごうまる)」の二隻(ふたふね)の御座(ござ)船(ふね)に

ありますが、勇敢(ゆうかん)に荒波(あらいな)を乗り越え突き進(つ)んで欲(ほ)しいという願(ねが)いを込(こ)めています。また、拙(つた)な(な)日々清々(きんきん)しく、日々新(あたら)しい気持ち(きもち)で、日々前向(まへむか)きに進(すす)みませふ、そして、日々是好日(こうじつ) 毎日(まいにち)が、おだやか(おだやか)でよき日(よき日)でありますやうに。」と認(まじ)した(した)。

「めました。文中(ぶんちゆう)の「ませふ」や「やう」には、歴史的(れきしき)仮名遣(かみなづ)い(い)れきてき かなづか)いでありませふ。表記(ひょうじ)は、「ませふ」「やうに」ですが、読むときは、「ましよう」「よう」に発音(はつおん)します。少し、雅(みやび)な雰(ふ)囲(い)気(き)ふんいき)を醸(か)も)しだしますでしよう。

写真(しやうしん)のとおりです。数(かず)に限り(かぎ)がありますが、ご希望(ごきぼう)の方(かた)にお分(わか)けしてあります。



◇生産年齢人口(せいさんねんれいじんこう)(十五歳(じゅうごさい)から六十四歳(ろくじゅうしさい)が増(ま)えることを人口ボーンナス(じんこうぼーんなす)といいます。この世代(せたい)は、生産(せいさん)するだけでなく旺盛(わうせい)な消費(しょうひ)もするという意味(いみ)で、経済活動(けいぎかつどう)の主役(しゅやく)です。したがって、人口ボーンナス期(じんこうぼーんなすき)には、生産力(せいさんりき)が向上(こうじやう)さらにマーケットも拡大(くわくだい)していくので経済(けいぎ)がプラス成長(せいせいちやう)するのです。インド(いんど)や中国(ちゆうごく)などの新興国(しんこうこく)は、いま人口ボーンナス期(じんこうぼーんなすき)にあります。その逆(さか)に生産年齢人口(せいさんねんれいじんこう)が減少(げんじゆう)することを人口オーナス(じんこうおーなす)といまして、この時(とき)経済(けいぎ)はマイナス成長(せいせいちやう)の循環(じゆうかん)に陥(お)りやすい

しいという願(ねが)いを込(こ)めています。また、拙(つた)な(な)日々清々(きんきん)しく、日々新(あたら)しい気持ち(きもち)で、日々前向(まへむか)きに進(すす)みませふ、そして、日々是好日(こうじつ) 毎日(まいにち)が、おだやか(おだやか)でよき日(よき日)でありますやうに。」と認(まじ)した(した)。

そうです。実は、日本は、平成六年からこの人口オーナス期に入っています。まさに、「失われた二十年」でありますよ。しかし、急成長を続けている中国も、あと四年で人口オーナス期に入らそうですね。近代化のスピードが速く、人口増加のスピードも速く、拡大社会の文明に欧米諸国より遅れて参入した日本は、縮小社会のフロントランナー、先進諸国に先んじて、縮小社会の問題に深刻に向き合っていると、津田塾大学の萱野稔人准教授は指摘しています。経済は成長しなければならないという教義(きょうぎ、ドグマ)を忠実に実践し、二度のオイルショックや円高不況も乗り越えてきました。しかし、長期デフレ、名目GDPは下がり続けています。萱野准教授は、今後世界は、「拡大」から「縮小」へとシフトチェンジする文明の転換期となる、日本は他国に先駆けて、この文明の転換に直面せざるを得ないと述べられています。

◇経済成長に伴って環境破壊が起きたり公害が発生すれば、生活の豊かさは失われます。

「物の豊かさ」を追い求めるあまり、「時間のゆとり」が失われれば、個人や社会にひずみをもたらしてしまいます。だとすれば、「縮小」する社会は、人と人が深く結びついた運命共同体の構築ではないかと考えますね。神社神道では、人間の罪(つみ)や穢(けがれ)は、人

間の慎(つつし)みや勤(いそ)しみ、そして神々のお力によって祓(はら)いよけられると信じられて来た、ですから、神道は「祓(はら)い」を大切にするので。 「日清日新日進」、そのように過ちを除き清々しい心で、新たな気持ちで神の御加護を信じて、日々の生業(なりわい)に、前向きに与(くみ)する、そして、どんなときにも「日々是好日」と、感謝する、この敬神生活の実践が、「縮小社会」に向かう心構えではないでしょうか。 「伊達の薄着」で、日清日新日進で日々是好日になるよう、御奉仕申し上げます。 来年が、皆様にとりまして、良き年でありますように、心からお祈り申し上げます。

◇十一月、十二月の祭典行事報告

▼月次祭 \*十一月一日、十五日、十二月一日

▼明治祭 \*十一月二日

▼福浦金刀比羅宮月次祭 \*十一月十日

▼福浦金刀比羅宮注連縄おろし \*十一月十八日

▼朝粥会 \*十一月二十一日

▼彦島八幡宮新嘗祭 \*十一月二十三日

▼六連島八幡宮新嘗祭 \*十一月二十四日

▼大歳神社森宮司神葬祭奉仕 \*十二月四日～二十五日

▼敬神婦人会研修旅行 \*十一月二十五日

▼大注連縄(おおしめなわ)おろし \*十二月二日

▼恵比須神社祈漁祭 \*十二月三日

◇十二月の祭典行事報告ならびに予定

▼月次祭 \*十二月十五日

▼朝粥会 \*十二月二十一日

▼天長祭 \*十二月二十三日

▼田の首八幡宮注連縄おろし \*十二月二十三日

▼正月臨時巫女説明会 \*十二月二十三日

▼大祓式(おおはらいしき) \*十二月三十一日

▼除夜祭 \*十二月三十一日

◇十二月の宮司の行事会議等活動報告ならびに予定

▼八幡宮関係団体

◇維蘇志会役員会、忘年会 \*十二月八日

▼山口県神社庁、同下関支部関係

◇山口県神社庁役員会 \*十二月三日

◇森宮司(大歳神社)を偲ぶ会 \*十二月二十二日

▼西ローターリークラブ

◇例会 \*十二月十二日

▼人権擁護委員活動

◇人権擁護推進大会 \*十二月八日

▼講演活動

◇秋吉八幡宮新嘗祭 \*十二月八日

▼倫理法人会モーニングセミナー \*十二月六日、二十日

▼忘年会

◇迫町自治会 \*十二月一日

◇キャボットジャパン \*十二月五日

◇信金経友会西山支部 \*十二月六日

◇下関二井化学 \*十二月十二日

◇彦島をよくする会 \*十二月十五日

◇彦島製錬 \*十二月二十日